



安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをするおそれがあることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

- 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
- 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
- アースの取り付けは販売店にご相談ください
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

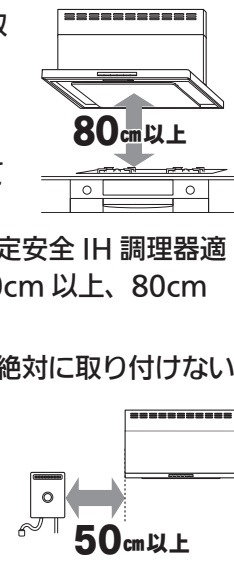
- メタルス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けすること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けすること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮すること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります
- 接触禁止
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは、十分強度のある場所を選んで確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります

取り付け上のお願ひ

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
 - ・大工工事【設置のための下地工事等】
 - ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】
 - ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
- 流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
 - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
 - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m²/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。
防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。

- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいじりくく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフード取付面の補強部に、取付用座付ねじが確実に届くことを確認してください。
取付ベース・取付ベース引掛線の取付用座付ねじは 45mm の長さのものが同梱されておりますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用座付ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。
- レンジフード本体取付面には必ず不燃材料を使用してください。
- レンジフードは調理機器の真上に取り付けてください。
なお、レンジフード取付高さは、レンジフードの下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。
ただし、防火性能評定品または特定安全 IH 調理器適合品の調理機器の使用に限り、60cm 以上、80cm 未満で設置することが可能です。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。
また、横方向 50cm 以上離して取り付けしてください。
湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。



- 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集しきれませんので、おた所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm² 程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露しレンジフード内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を設けてください（目安：勾配 1/100～1/50 程度）。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。
- レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。
レンジフードへの通電が遮断されますと、お手入れ時（目安：約 100～150 程度）を正しくお知らせできなくなります。
- 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。
レンジフードへの通電が遮断されますと、お手入れ時（目安：約 100～150 程度）を正しくお知らせできなくなります。
- 風量おまかせ運転（風量自動切替）機能を正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。



取り付け前の調査と準備

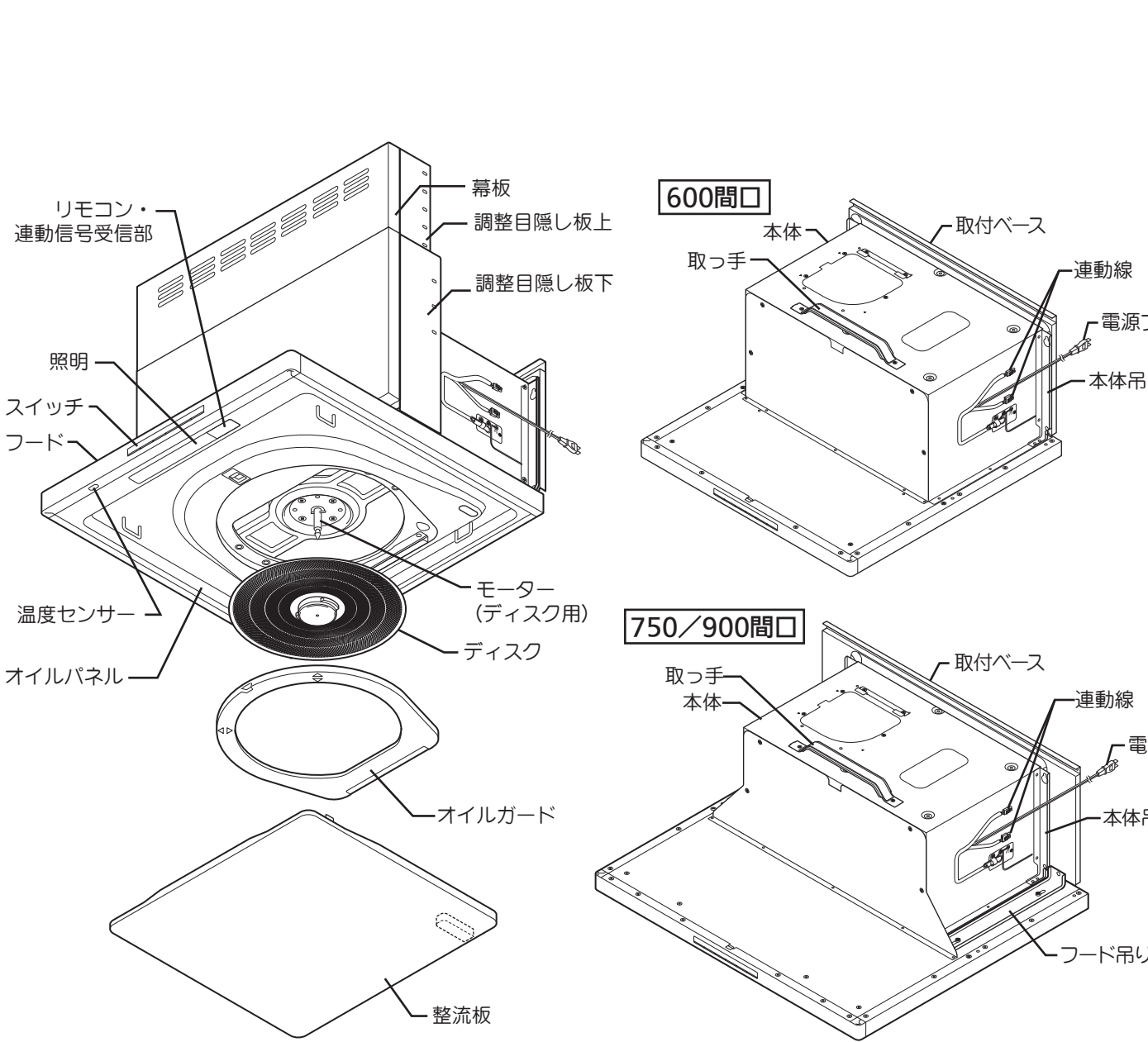
- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けすること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは、十分強度のある場所を選んで確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります

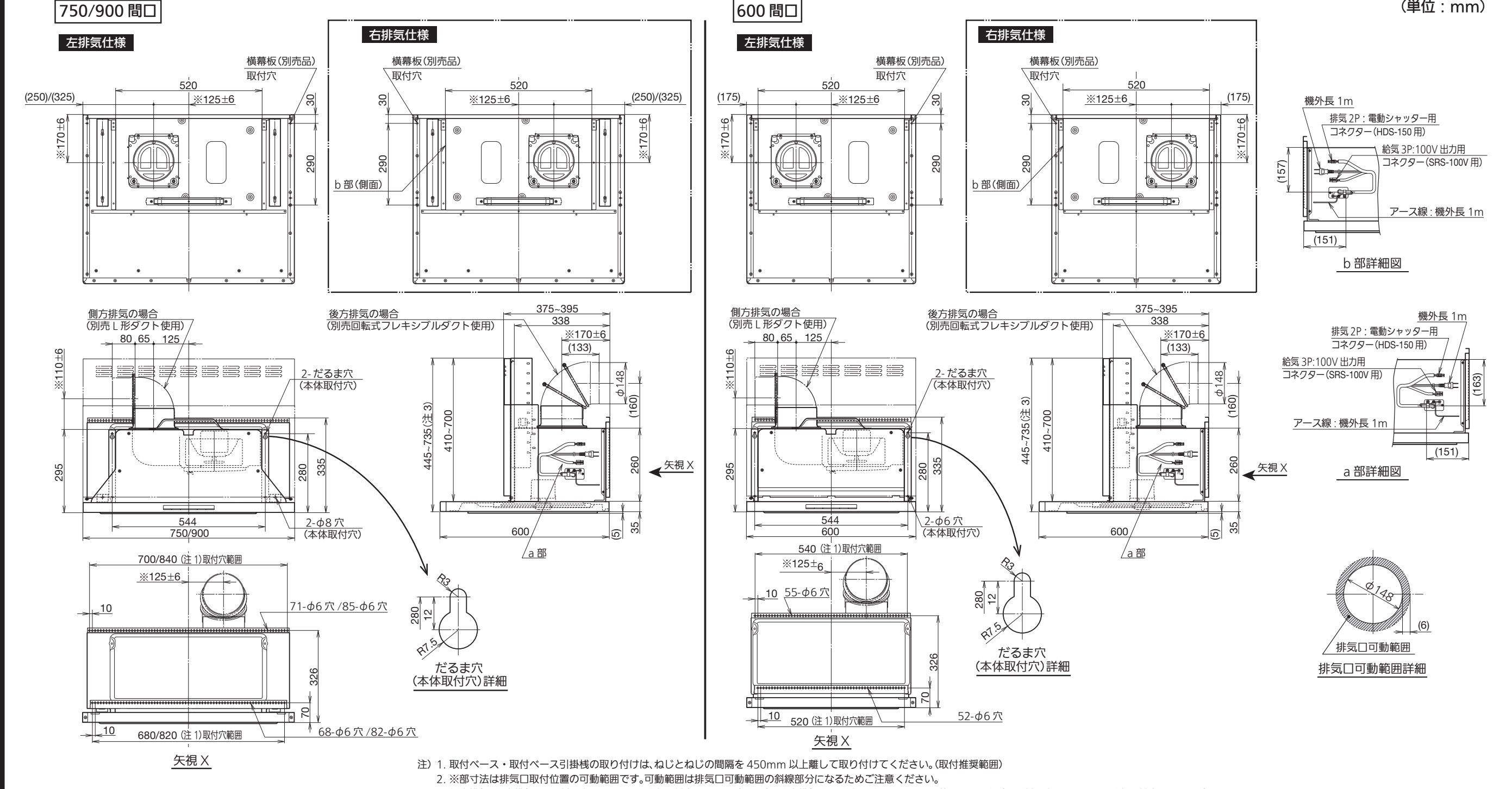
取付面の強度確認	製品単体質量
600 間口	23.0 kg
750 間口	27.0 kg
900 間口	30.0 kg

- コンクリート、タイル壁の場合
 - あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カルプラグ等を使用し固定してください。
- 土壁の場合
 - 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。
- 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。
- 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面からレンジフードの下端まで 80cm 以上です。
※ 火災予防条例では、グリッドフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。ただし、防火性能評定品の調理機器の使用に限り、調理機器の上面からレンジフード下端まで 60cm 以上とすることが可能です。
- 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。
- お願ひ
必ずアース（D 種接地工事）をしてください。
レンジフードが誤作動することがあります。

各部のなまえ



製品寸法図



付属品

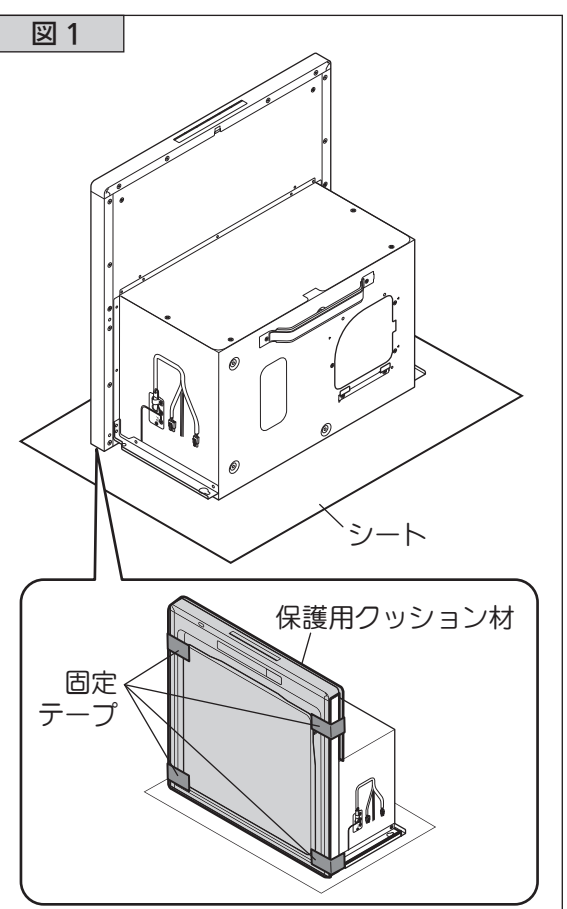
- 座付ねじ（φ 5.1 × 45）4 本
取付ベース・取付ベース引掛線の取り付けに使用します。
- 低頭ねじ（M4 × 8）4 本
別売 L 形ダクトの取り付けに使用します。
- 低頭ねじ（M4 × 16）2 本
排気口取付板の取り付けに使用します（上方排気の場合）。
- 取付ねじ（M5 × 12）2 本
取付ベースとフード吊り金具との固定に使用します。
- 引掛ねじ（M5 × 12）2 本
取付ベースと本体との固定に使用します。
- ソフトテープ 1 本
排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使用します。
- 排気口 1 個
本体とダクトの接続に使用します。
逆風防止シャッター付きです。
- 取付ベース引掛線 1 個
取付ベースの取り付けに使用します。
- 取付ベース 1 個
本体の取り付けに使用します。
- 調整目隠し板上
調整目隠し板下
- 幕板セット 1 組
本体正面の目隠しに使用します。（セット内容）
 - ・幕板……………1 枚
 - ・調整目隠し板上（左・右）…各 1 個
 - ・調整目隠し板下（左・右）…各 1 個
 - ・取付ねじ（M4 × 10）…各 2 本
 - ・木ねじ（φ 4.1 × 13）…各 6 本
 - ・アルミテープ……………1 本

取り付けかた

1. 付属品の確認

注意

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 付属品を確認します。
梱包箱から付属品を取り出し、上項中央の付属品一覧により不足がないか確認します。
- お願ひ
取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
保護用のクッション材と固定テープは「6. 取扱説明書およびオイルガード固定テープの取りはしり」まで必ずご確認ください。
床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。（図 1）



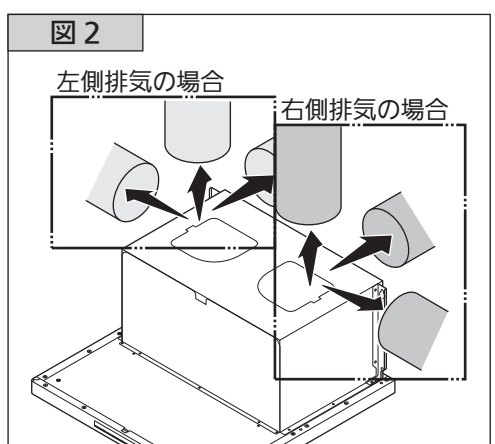
2. 排気方向の決定

警告

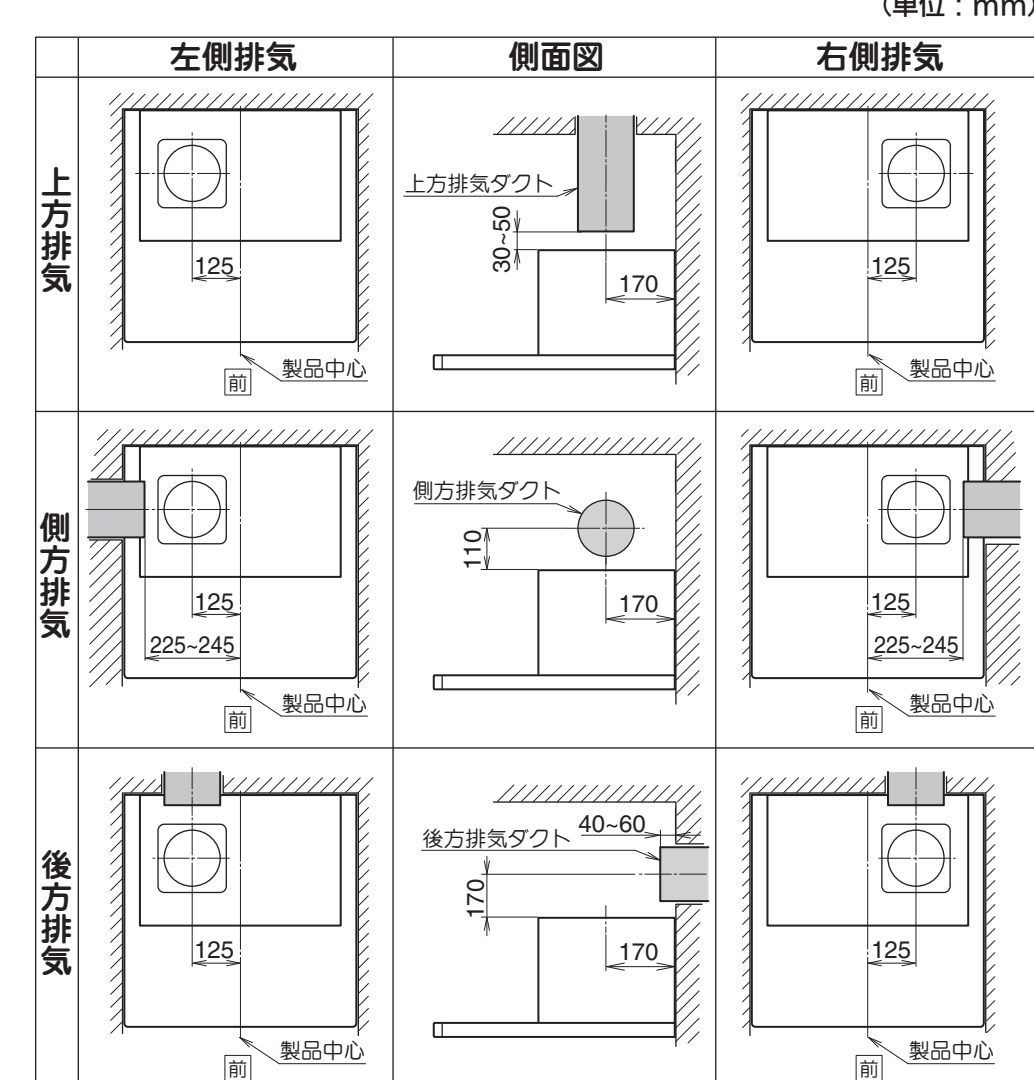
- メタルス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けすること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
- 詳細は所轄の消防署に問い合わせてください
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

注意

- 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開け方を依頼してください。（ダクトの風漏れ防止のテープピン作業ができるよう、壁穴は大きめに開けてください。）
また、コンセントの位置を確認してください。
- 本製品はダクトの排気方向を、左側・右側排気それぞれ 3 方向の中から選べます。（図 2）



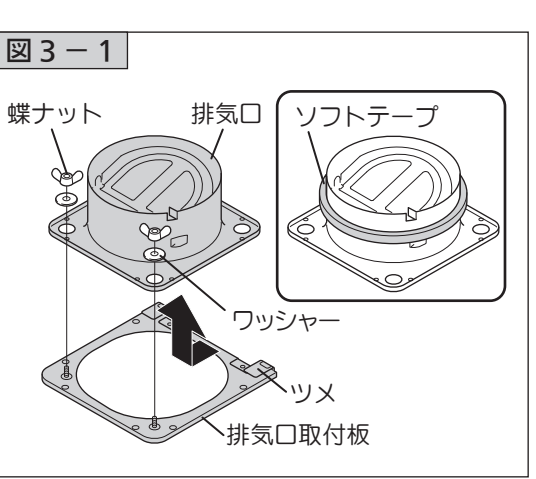
- φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトをレンジフードの上部に突き出すようにセットして周囲を仕上げてください。（コンクリート、タイル、土壁の場合）



3. 排気用部品の準備

以下は左側排気の場合を示します。
右側排気の場合は左右対称として見てください。

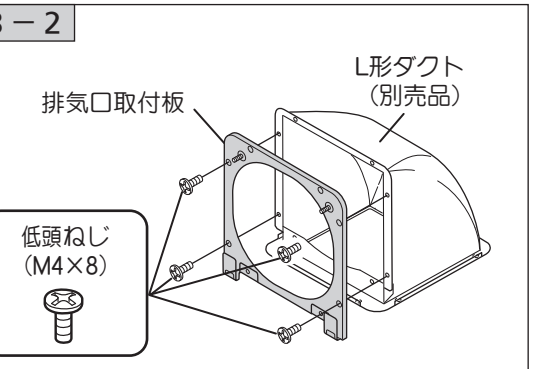
- 排気口をはずします。（図 3-1）
1) 2ヶ所の蝶ネットおよびワッシャーをはずします。
お願ひ
はずした蝶ネット、ワッシャーはくさないようご注意ください。
- 排気口取付板のツメ（2ヶ所）から、排気口をスライドさせてははずします。
- 付属品のソフトテープを排気口に貼り付けます。



■ 後方排気でプロペラ換気扇取替キット（PTK-25）を使用する場合
OGR 専用アダプター（別売品）をご使用ください。

■ 側方排気の場合

- L 形ダクト（別売品）に排気口取付板を取り付けます。（図 3-2）
排気口取付板を付属品の低頭ねじ（M4 × 8）4 本で L 形ダクト（別売品）に取り付けます。
※ L 形ダクトに付属の取付ねじは使用しません。



取り付けかたは裏面に続きます。

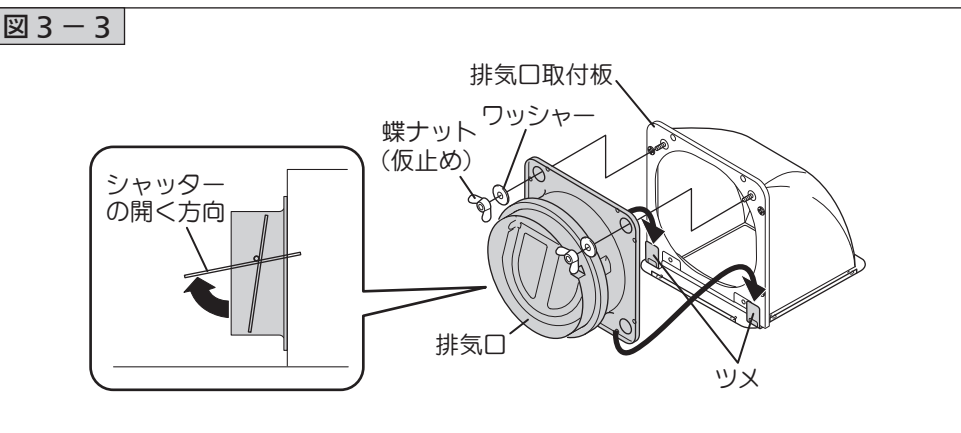
こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。
安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のご願いは表面をご覧ください。

取り付けかた（つづき）

- 2** 排気口取付板に排気口を取り付けます。(図3-3)
排気口取付板のツメに排気口を差し込み、ワッシャーおよび蝶ナット2個で仮止めします。
取り付け方向は、シャッターの開閉方向が下方になり、レンジフードを運転していないときはシャッターが閉じるように取り付けます。

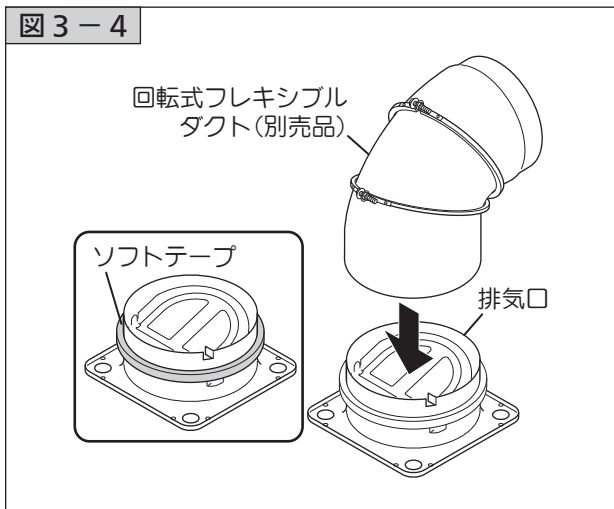
お願い

排気口を取り付ける際は、シャッターの開く向きに注意してください。
誤った取り付けの場合、排気不良や異音の原因になります。



■ 後方排気の場合

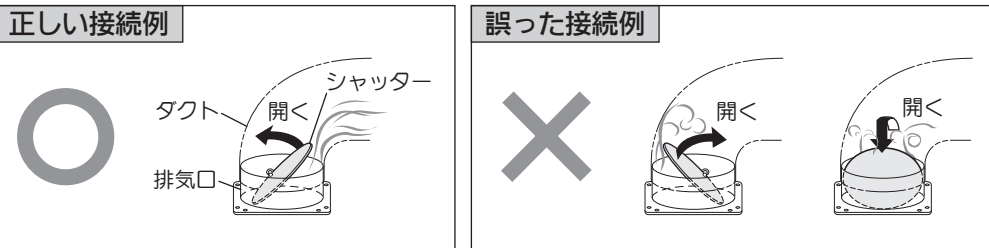
- 1** 回転式フレキシブルダクト（別売品）に排気口を差し込んで取り付けます。(図3-4)



お願い

し形ダクトまたは回転式フレキシブルダクトを使用しないで、排気口に直接ダクトを接続して側方・後方排気する場合は、シャッターの開く向きに注意して排気口を取り付けてください。

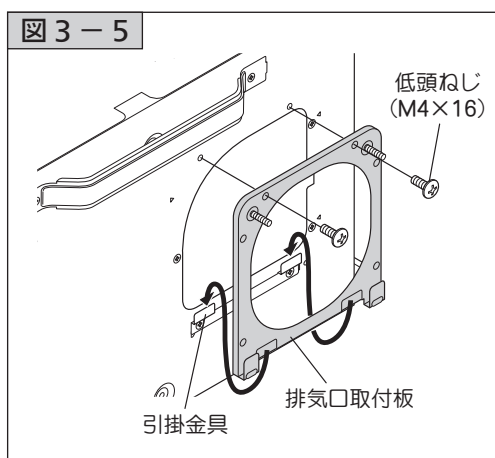
下図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異音の原因になります。



排気口と本体の接続

■ 上方排気・後方排気の場合

- 1** 排気口取付板を取り付けます。(図3-5)
フードの排気口取付部にある引掛金具のツメに排気口取付板を差し込み、付属品の低頭ねじ（M4×16）2本で固定します。

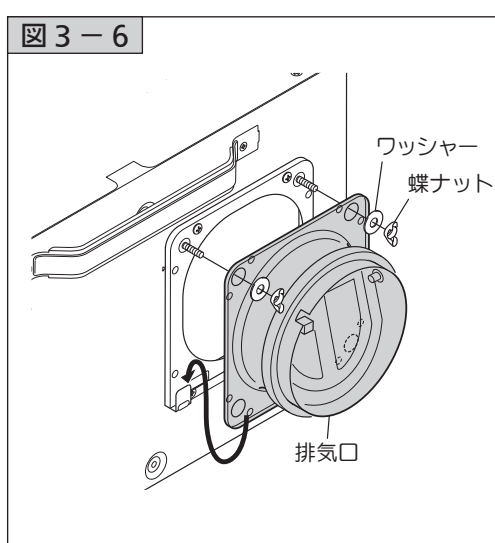


（上方排気の場合のみ）

- 2** 排気口を取り付けます。(図3-6)
排気口取付板のツメに排気口を差し込み、ワッシャーおよび蝶ナットで仮止めします。
※ 排気口は取付位置から6mmの範囲で可動できます。
ダクトを接続したあとに固定してください。

お願い

排気口を取り付ける際は、シャッターの開く向きに注意してください。
誤った取り付けの場合、排気不良や異音の原因になります。



■ 側方排気・後方排気の場合

本体を取り付けたあと「5. ダクトと排気用部品の接続」でおこないます。

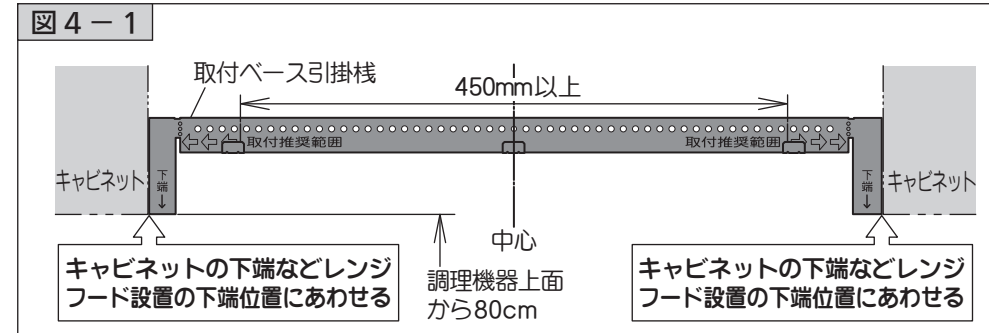
4. レンジフードの取り付け

⚠ 注意

- 取付注意**
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをすることがあります
 - 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをすることがあります
 - 設置の際、整流板を持たないこと
必ずフード部を持って設置してください
変形する可能性があります
- 取取注意**

レンジフードの取り付け

- 1** レンジフードの取付位置を確認します。(図4-1)
付属品の取付ベース引掛棧両端にある突起下部をキャビネットの下端など、レンジフード設置の下端位置に合わせます。



2 取付ベース引掛棧を取り付けます。(図4-2)

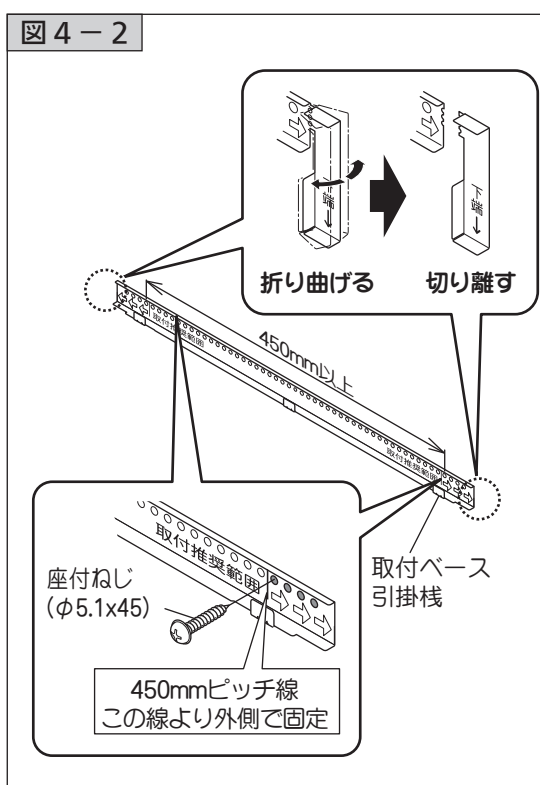
- 1) 取付ベース引掛棧を付属品の座付ねじ（φ5.1×45）2本で取付推奨範囲（刻印あり）に固定します。

お願い

座付ねじ取り付け位置は450mm以上離し、取り付け面の補強部に確実に届く場所に固定してください。

※ 取付推奨範囲外での取り付けや壁面の強度などの影響でレンジフードが前ダレする場合は、市販のねじで増し打ちしてください。

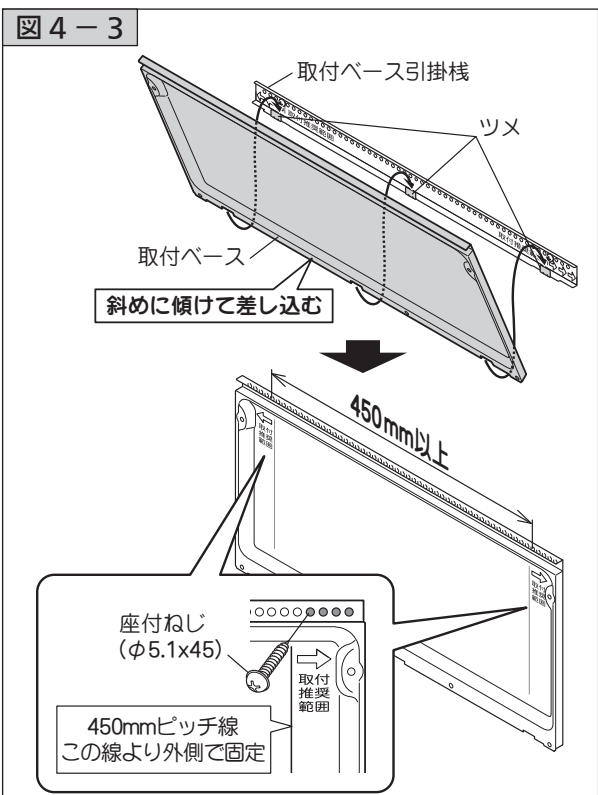
- 2) 取付ベース引掛棧の両端を折り曲げて切り離します。



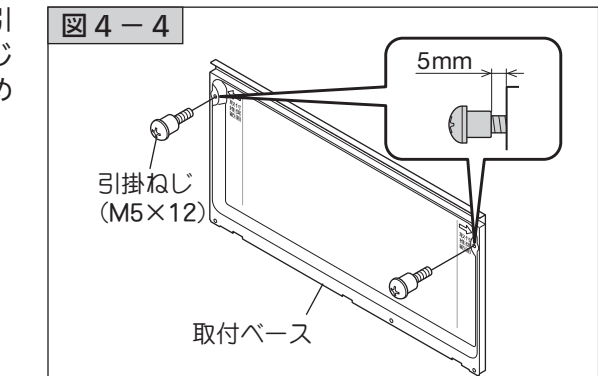
3 取付ベースを取り付けます。

- 1) 取付ベースの角穴を取付ベース引掛棧3ヶ所のツメに引っ掛け、上側を付属品の座付ねじ（φ5.1×45）2本で取付推奨範囲（刻印あり）に固定します。(図4-3)

※ 取付推奨範囲外での取り付けや壁面の強度などの影響でレンジフードが前ダレする場合は、市販のねじで増し打ちしてください。



- 2) 取付ベース上部に付属品の引掛ねじ（M5×12）2本をねじ込み、すきま5mmまで締め付けます。(図4-4)



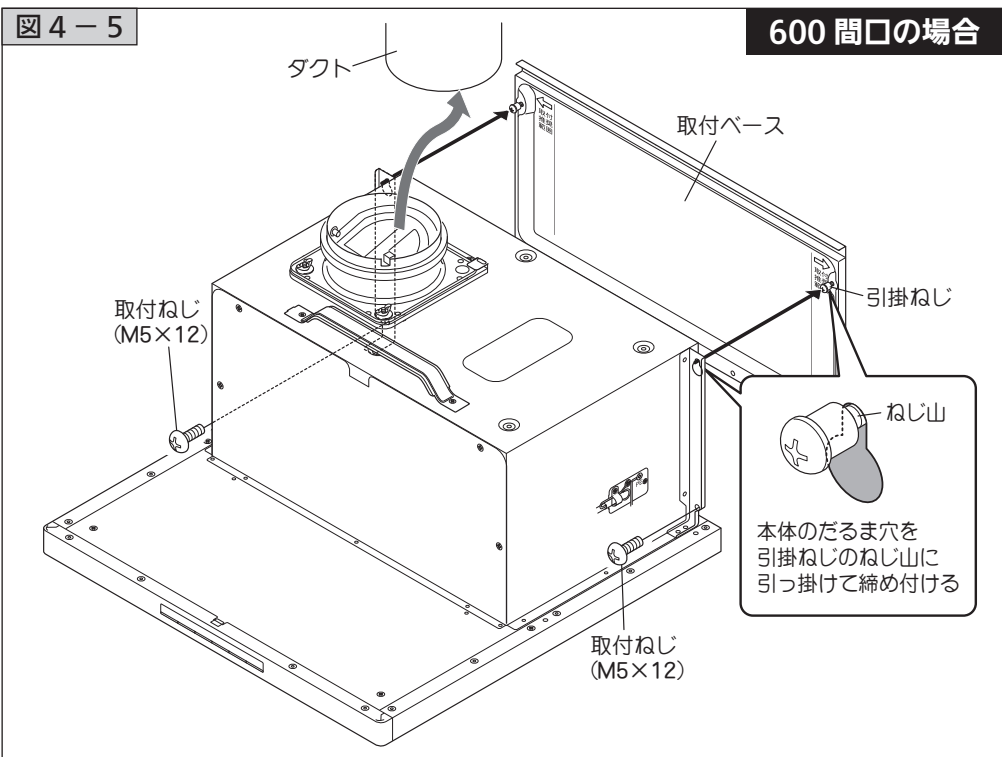
4 本体を取付ベースに取り付けます。(図4-5)

- 1) 手順3の2)で取り付けた取付ベース上部の引掛ねじ（M5×12）2本に本体のたるま穴を引っ掛けた後、しっかりと締め付けます。
※ 取っ手は、本体を引っ掛ける際の持ち手として使用できます。

お願い

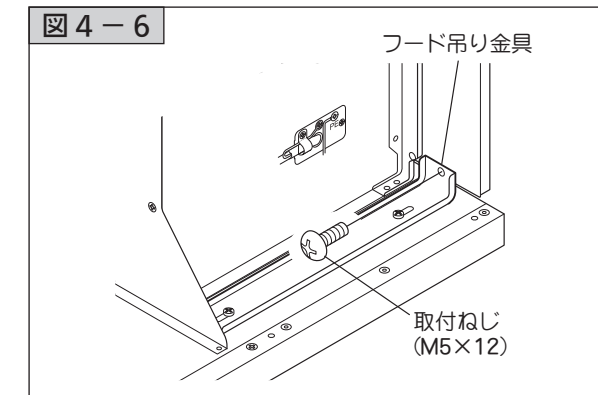
- 必ず引掛ねじのねじ山に引っ掛けてください。
- 上方排気の場合は、ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

- 2) 左右のたるま穴側の丸穴に、付属品の取付ねじ（M5×12）2本をねじ込み、しっかりと固定します。(図4-5)



750 および 900 間口の場合

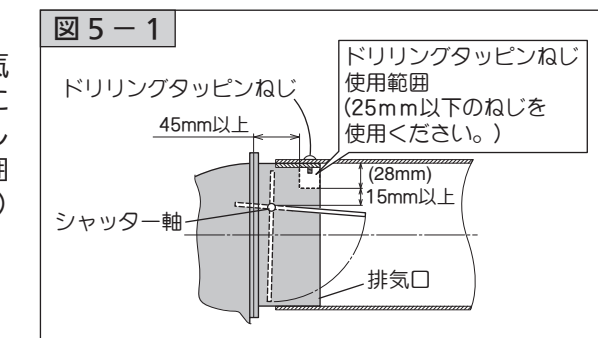
- 3) 左右のフード吊り金具の丸穴に付属品の取付ねじ（M5×12）2本をねじ込み、しっかりと固定します。(図4-6)



5. ダクトと排気用部品の接続

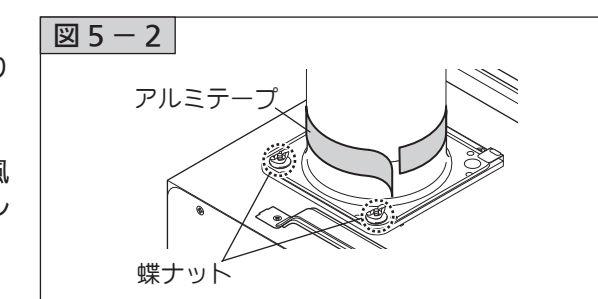
お願い

ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピンねじ使用範囲以内に固定してください。(図5-1)



■ 上方排気の場合（図5-2）

- 1) 排気口の蝶ナットをしっかりと固定します。
- 2) ダクトと排気口の接続部に風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。

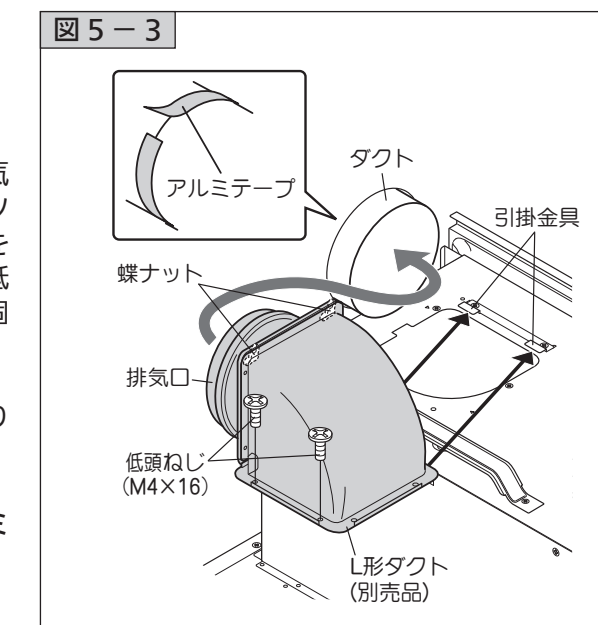


■ 側方排気の場合

1 排気口をダクトに接続します。(図5-3)

- 1) し形ダクト（別売品）を排気口取付部にある引掛金具のツメに差し込みながら排気口をダクトに挿入し、付属品の低頭ねじ（M4×16）2本で固定します。

2 排気口の蝶ナットをしっかりと固定します。



2 風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。

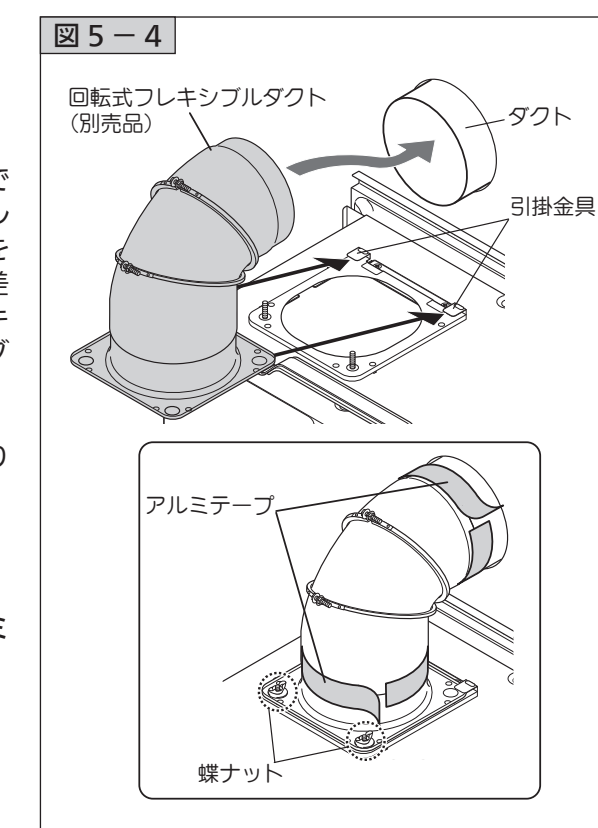
■ 後方排気の場合

1 排気口をダクトに接続します。(図5-4)

- 1) 前述の（図3-4）の要領で接続した回転式フレキシブルダクト（別売品）と排気口を排気口取付板にあるツメに差し込みながら、回転式フレキシブルダクト（別売品）をダクトに挿入します。

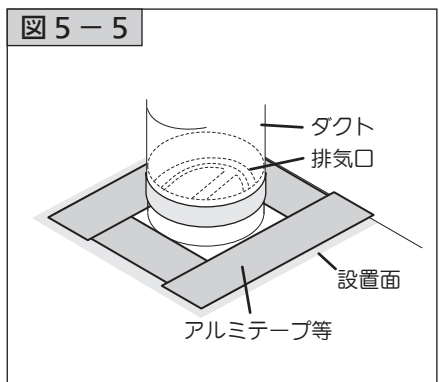
- 2) 排気口の蝶ナットをしっかりと固定します。

2 風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。



■ 排気口設置面の漏風確認のお願い（図5-5）

排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとする、排気口と排気口の設置面（製品天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
漏風確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。
漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。



6. 取扱説明書およびオイルガード固定テープの取りはずし

■ 保護用クッション材をいったん取りはずし、整流板に貼り付けてある取扱説明書をはずします。

- 付属の取扱説明書を参照して整流板を取りはずし、オイルガードを固定しているテープをはがします。
固定テープをはがした後は整流板をもとどりに取り付けてください。

7. 電気配線

⚠ 警告

- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作しけがをすることがあります
- 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い

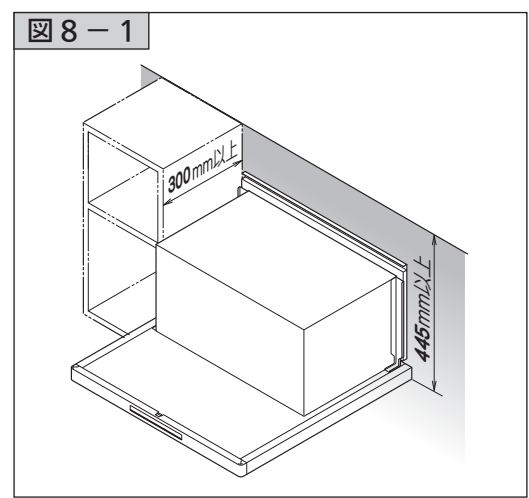
- 電源は専用のコンセント（2極差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
- 「9. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
- コンセントは電源コードの長さを考慮し、設置してください。
- 必ずアース（D種接地工事）をしてください。機器に異常がない場合でも、アースを接続していないと製品に帯電している電気を感じる場合があります。
- アース線を先に接続してから、コンセントに電源プラグを差し込んでください。
- レンジフードの配線工事の際、壁スイッチを設置しないでください。

8. 幕板の取り付け

■ 取り付け前の寸法確認（図8-1）

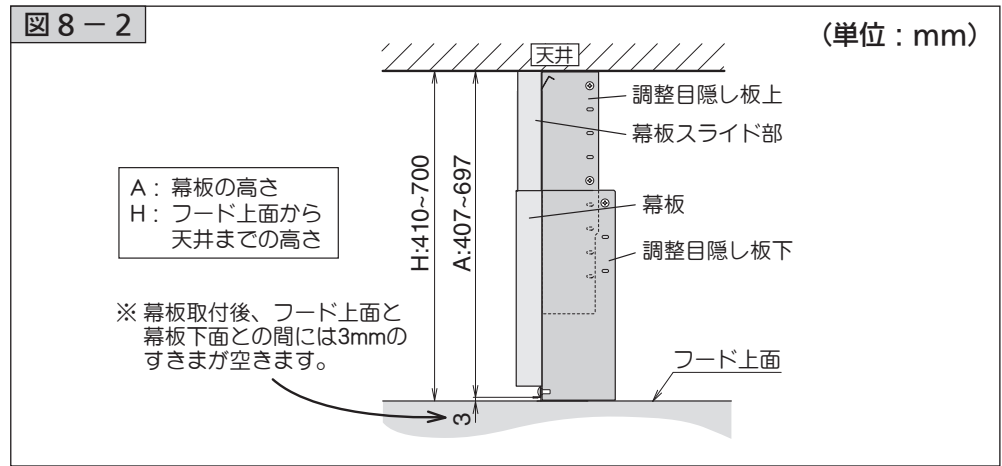
フード下面から天井までの高さが445mm以上、また壁からキャビネット本体までの奥行300mm以上あるかをそれぞれ確認してください。

- ※ 奥行が300mm未満の場合は別売の横幕板をご使用ください。



■ 幕板取付高さ範囲（図8-2）

次式により幕板の高さを算出し、幕板のスライド部を調節して高さを合わせます。
A（幕板の高さ）＝H（フード上面から天井までの高さ）－3mm

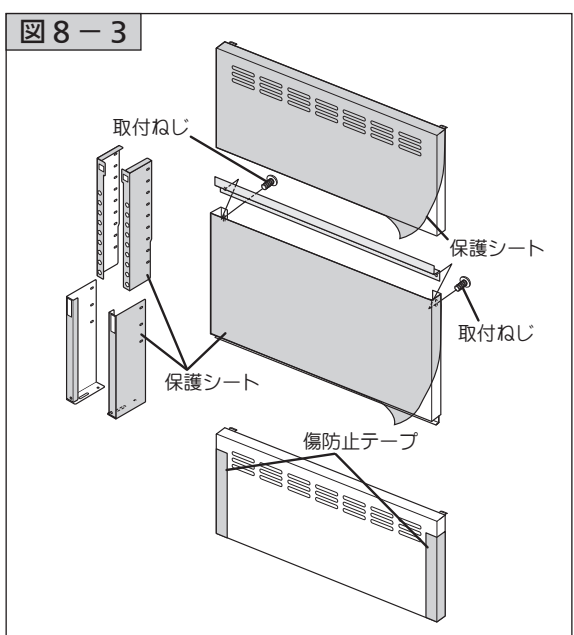


1 保護シートをはがします。(図8-3)

お願い

- 保護シートをはがした後はキズが付きやすいので十分注意してください。
- 製品色により、ポリ袋の場合があります。

幕板および調整目隠し板上・下に保護シートがついている場合は、保護シートをはがします。
※ 幕板の保護シートをはがす際は、取付ねじをはずし、幕板を上下に分割してからはがしてください。



2 スライド部を固定します。(図8-4)

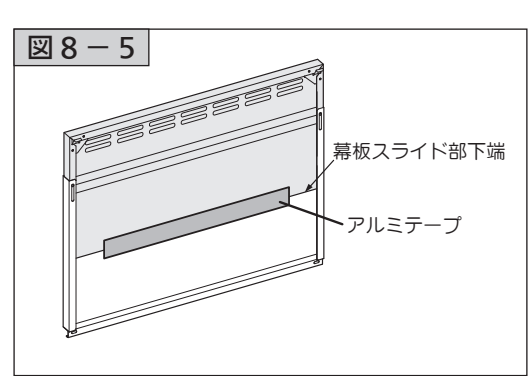
※ あらかじめ「幕板取付高さ範囲」（図8-2）を参照して幕板の高さ調整をおこなってください（幕板をキズつけないよう十分ご注意ください）。

- 1) 補強金具を幕板裏面に差し入れ、幕板の高さ調整穴付近まで移動させます。

- 2) 補強金具を回転させ、幕板の調整穴と補強金具の穴位置を合わせ、取付ねじ（M4×10）2本で固定します。



- 3) 幕板スライド部の下端を付属品のアルミテープで幕板裏面より固定します。(図8-5)



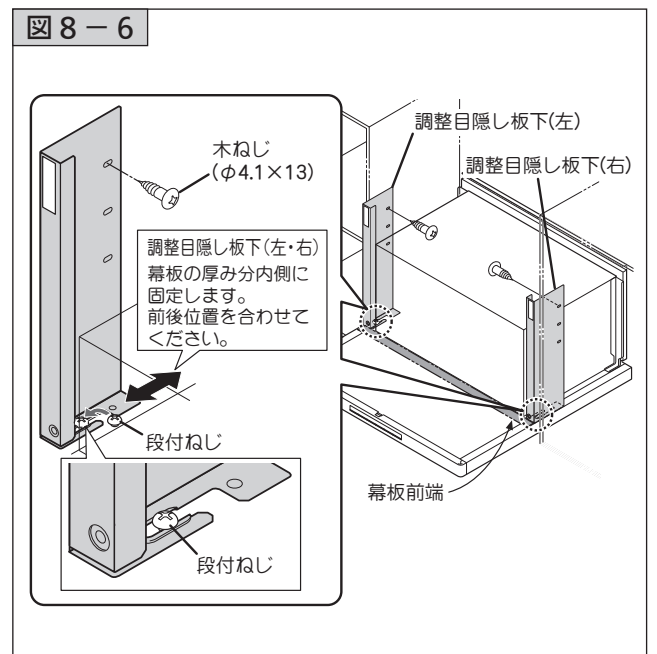
3 調整目隠し板下（左・右）を取り付けます。(図8-6)

お願い

調整目隠し板上・下を取り付ける際は左右を間違えないようご注意ください。

- 1) フード左右の取付部にあらかじめ取り付けられている段付ねじに調整目隠し板下の下部にある切り欠きを差し込み、前後にスライドさせて位置を合わせます。

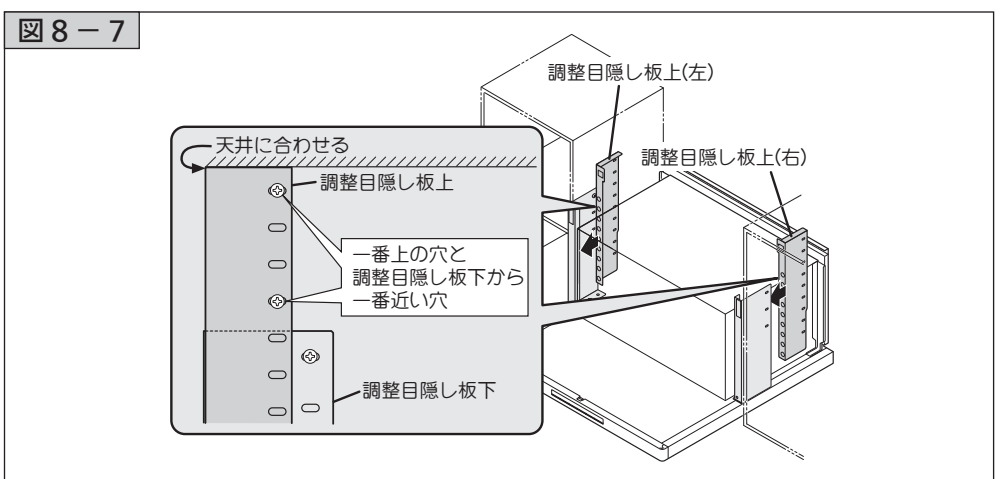
- 2) 調整目隠し板下とキャビネットを付属品の木ねじ（φ4.1×13）で固定します。



4 調整目隠し板上（左・右）を取り付けます。(図8-7)

調整目隠し板上を調整目隠し板下に差し込み、天井に合うよう位置を調整して木ねじ2本で固定します。

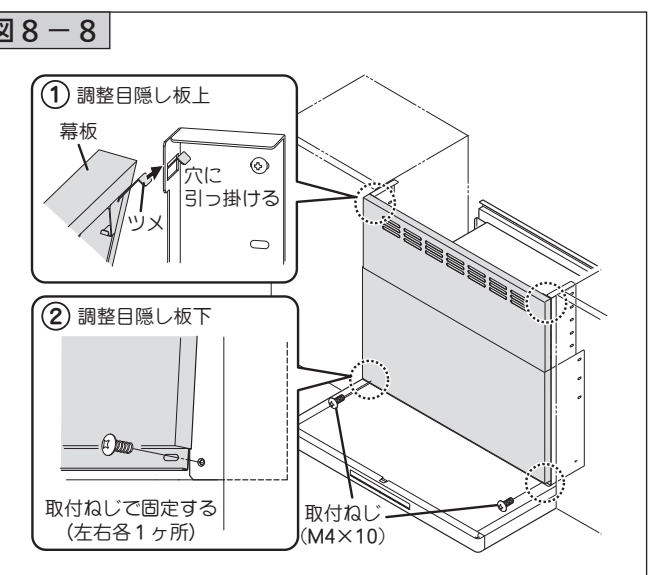
※ 木ねじ2本は、うち1本を調整目隠し板上にある一番上の穴、もう1本を調整目隠し板下に最も近い穴に取り付けてください。



5 幕板を取り付けます。(図8-8)

- 1) 幕板裏面上部にある左右のツメを調整目隠し板上の穴に引っ掛けます。

- 2) 幕板と調整目隠し板下のねじ穴を合わせ、付属品の取付ねじ（M4×10）2本で固定します。



9. 試運転

⚠ 注意

- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをすることがあります

- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 必ず最終設置した状態で試運転してください。
- 整流板がディスクが正しく取り付けられていることを確認してください。整流板が正しく取り付けられていないと、運転停止機能により運転できません。ディスクを取り付けていなかったり、取り付けが不完全な状態で運転すると、ディスク付け忘れお知らせ機能により、付け忘れをお知らせします。整流板とディスクの取り付けについては取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。
- 製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープをもとの状態に取り付けてください。
- 風量おまかせ運転（風量自動切替）機能を正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。

10. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

〔販売元〕 フジテックメンテナンス株式会社

〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1番9号

お申し込み・お問い合わせ 0120-953-903（通話料無料）
FAX 042-768-3383
ホームページ https://www.fujioh.shop
受付時間 9:00～17:30（土、日、祝日、夏期休暇、年末年始を除く）

〔製造元〕 -FUJIOH- 富士工業株式会社

〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1番9号

お客様ご相談窓口 0120-071-686（通話料無料）
受付時間 9:00～17:30（土、日、祝日、夏期休暇、年末年始を除く）